

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：30103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360019

研究課題名(和文) 20世紀アメリカ医療史の展開 望ましき身体と機構

研究課題名(英文) The Development of Medicine in the Twentieth Century United States--Desired Bodies and Institutions

研究代表者

平体 由美 (HIRATAI, Yumi)

札幌学院大学・人文学部・教授

研究者番号：90275107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究は、医療保険制度と優生学運動の研究に限られていたアメリカ医療史の裾野を広げることを目的として開始された。最終的に、20世紀初頭の時代を中心とした訪問看護史、産業看護史、公衆衛生史、精神衛生史、病院制度史を充実させることとなった。このような個別領域の充実と並んで、共同で発見した事項として、身体管理の強化がすすんだ20世紀前半に、「健常ではない者」を包摂しつつ同時に排除する方法が模索されていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of our study has been to broaden historical interpretations of American medical experiences. At the time our study started, the studies on the US medical history in Japan had been limited to medical insurance systems and eugenics. Now we have expanded our research topics to histories of visiting nurses, industrial nurses, public health, mental health, and hospitals. Besides, we have synthesized our findings and concluded that those who were categorized as "not healthy nor normal" were publicly admitted by the mainstream groups to live in the community in the early twentieth century, at the same time artfully distanced from the mainstreams so that they could keep the existing social order.

研究分野：20世紀初頭アメリカ政治史

キーワード：看護史 産業史 医療史 病院制度史 公衆衛生史 アメリカ史

1. 研究開始当初の背景

我々が研究に着手する以前は、日本のアメリカ史研究において、医療史はほとんど顧みられていなかった。これはヨーロッパ史やアジア史とは対照的だった。

ヨーロッパ史やアジア史研究においては、医療史はすでに一つの重要な分野を形成していた。コレラやペストなどの一国疾病史から始まり、疾病に対応する政治制度、病院制度、治療者の役割をめぐる権力関係、治療を受けるに値する者の区分に表出する社会関係など、病める身体のコントロール技法と作法が様々な方向から検証されていた。さらに医療史は一国の検討に留まらず、グローバルゼーションや帝国論との統合が試みられており、日本においてはとりわけ植民地医療研究の発展がめざましかった。しかしそれらの研究で言及されるアメリカの医療の歴史には、アメリカの社会構造や政治の理解が反映されていなかった。ここにアメリカの政治や社会の理解を反映した医療史研究が必要であると同時に、我々の研究が日本の西洋史や帝国史、グローバルヒストリー研究に貢献する余地があると考えた。

2. 研究の目的

研究の目的は二つあった。第一に、「身体」をキーワードとして 20 世紀アメリカ医療の姿を社会史、医療制度史、政治史の分野から照射することによって、国民としてあるべき人物像とみなされたものを浮かび上がらせることであった。第二に、政府が個人の身体に関わることにについて、かつて人びとの間に強固に存在していた警戒と抵抗が、どのような変遷をたどって、政府が身体を保全するための介入を行うべきという認識に変化してきたか、その経路を明らかにすることであった。

3. 研究の方法

本共同研究は、研究代表者および分担者の個別研究と、それぞれの発見や解釈を持ち寄って研究を総合的に俯瞰するための合同研究会、そして外部講師を招いた研究会から構成された。

個別研究では、医療制度の政治学的な分析(山岸)、看護史の人種・ジェンダー史的分析(松原)、精神衛生史の社会史的分析(小野)、公衆衛生の政治史分析(平体)が、それぞれ未公開の一次史料を分析する手法によって研究がすすめられた。

外部講師招聘研究会は、合計 4 回開催された。それぞれイギリス公衆衛生史、日本看護史、日本精神衛生史、中国医療史の専門家をお招きし、活発な議論を行った。続けて行った合同研究会では、それぞれの発見を統合し、新しい研究像を模索した。

4. 研究成果

我々の研究は、かつて医療保険制度と優生

学運動に限られていたアメリカの医療史を、公衆衛生、訪問看護、産業看護、病院制度、精神病史などさまざまな論点について多角的にとらえなおし、新しい研究テーマを提示・示唆し、結果的に研究の裾野を広げること成功した。また、学会報告やシンポジウムを通して、日本のアメリカ研究界に少なからぬ貢献をしたと考える。

これまでのアメリカ社会史研究は、理念や心情、アイデンティティなどに焦点をあて、その言説や背景に関して緻密な分析を行うものであった。アイデンティティ研究は一般的に、個別化・細分化に向かう。この分野において、日本のアメリカ社会史研究は、大きな成果を上げてきた。これに対し、我々が取り組んだのは、世界共通の科学的・医学的理論に基づく人種や性の差異にほとんど左右されない医療実践と、アイデンティティ研究を接合し、身体や病という現実が、いかに心情やアイデンティティと衝突を繰り返しつつ、実際の制度や機構を作り上げてきたのかについて、光を当てることだった。

今回の共同研究での発見は、人間の身体や病に関する一般的な知識や理解であっても、主流文化を構成する白人ミドルクラスの人びとによって、人種やエスニシティ、そして移民の差異を明確化するように変形され、編集され、利用されたこと、すなわち人間を区別する各種の境界線を医学・科学が拭い去ることはできなかったということだった。使い方によっては、人間の恣意的な分類を正す可能性があった専門知であったが、それらは当時の参加者(医師、看護師、公衆衛生関係者、医療サービスの受け手、地元政治家、連邦制度そのもの)によって、既存の人種秩序とジェンダー秩序を維持するよう、細心の注意を払って適用された。それは近代啓蒙思想が晶出した自由権や人権が、さまざまな理屈により奴隷に適用されなかったことと似た構造を持っていた。

他方で、身体の保全に焦点をあてる医学は、既存の人種・ジェンダー秩序を維持しつつも、その境界壁を低くする効果を及ぼした。一例を挙げると、公衆衛生について、白人公衆衛生官は白人の病の回避、健康の維持について、行政組織を立ち上げて支援したと同時に、黒人や移民に対しても、白人の健康に影響を与えないようにという理由づけを援用して、白人に対するものと遜色ない広報を行った。南部地域で人種隔離制度が強化される時代において、公衆衛生専門家は、人種秩序に留意しながらも全住民に向けて対策をとったことは、公衆衛生専門家の工夫と苦心の表れるところだった。

本共同研究を通して、アメリカにおける人種、エスニシティ、ジェンダー秩序が、想定以上に強固であることが明らかになったとともに、これらの「人を区別する力」と「同じものとして扱う力」が交差する分野において、当事者の環境理解と行動を丁寧に分析す

ることで、人種・ジェンダー・地域の歴史に、より豊かな解釈可能性を提供できる見通しが得られた。

本共同研究の成果は、2016年度中に論集として発表することを予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

松原宏之「医療、福祉、社会運動の領域で 20世紀初頭ニューヨークの訪問看護婦たち」『史苑』76巻2号、2016年、101-103。(査読なし)

小野直子「革新主義期アメリカにおける精神医学と移民制限」『富山大学人文学部紀要』64巻、2015年、137-152。(査読なし)

小野直子「近代科学の台頭と人間の分類 20世紀初頭アメリカにおける『精神薄弱者問題』」『富山大学人文学部紀要』第62号、2015、163-186。(査読なし)

松原宏之「歴史の変動、歴史家と変革 レイモンド・フォスディックと第一次世界大戦期アメリカ改良運動の交錯する波」『歴史学研究』913号、2013年、1-11。(査読付き)

YAMAGISHI, Takakazu, "War, Veterans, and Americanism: The Political Struggle over VA Health Care after World War II," The Japanese Journal of American Studies, Vol.24, 2013, 145-165。(査読付き)

[学会発表](計7件)

小野直子「20世紀転換期の精神医療 精神科医と移民政策」日本アメリカ史学会第12回大会、北海道大学、2015年9月27日

平体由美「アメリカ合衆国保健局とマラリア対策 コミュニティ・ヘルスワークが描いた住民の保健」日本アメリカ史学会第12回大会、北海道大学、2015年9月27日

山岸敬和「戦争とアメリカ病院制度」シンポジウム「20世紀転換期の医のかたち 個人と公共の線引きをめぐって」日本アメリカ史学会第12回大会、北海道大学、2015年9月27日

平体由美「国家政策なき保健行政 20世紀初頭のアメリカ合衆国における保健行政の展開とロックフェラー財団の役割」社会経済史学会第84回大会、早稲田大学、2015年

5月31日。

松原宏之「第一次世界大戦経験の政治文化史 革新主義期の高潮、頓挫、余波」日本アメリカ史学会第11回大会、亜細亜大学、2014年9月27日。

山岸敬和「アメリカ医療制度の政治史」中部政治学会、名古屋大学、2014年8月2日。

平体由美「20世紀初頭南部の公衆衛生をめぐる専門知 伝統知 現場知の軋轢」アメリカ学会、沖縄コンベンションセンター、2014年6月8日。

[図書](計4件)

平体由美 第5章「近代衛生知・比較・広報 ノースカロライナ州公衆衛生局長ワトソン・ランキンと二十世紀初頭の非都市部攻守衛生行政」杉田米行編『アメリカ観の変遷』上巻、大学教育出版、2014年、90-115。

小野直子 第7章「アメリカ優生学運動と生殖をめぐる市民規範 断種政策における「適者」と「不適者」の境界」樋口映美他編著『<近代規範>の社会史 都市・身体・国家』彩流社、2013年、163-185。

平体由美 第8章「アメリカ南部寄生虫対策とコミュニティ公衆衛生活動 近代的公衆衛生行政への展開(1909-1920)」樋口映美他編著『<近代規範>の社会史 都市・身体・国家』彩流社、2013年、187-207。

松原宏之『虫喰う近代 1910年代社会映セ運動とアメリカの政治文化』ナカニシヤ出版、2013年、304。

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

独自企画シンポジウム：「20世紀初頭アメリカ合衆国における医療と看護をめぐるポリティクス」2015年10月17日、青山学院大学。

パネリスト：

小野直子「知的障害をめぐるポリティクス」

上野継義「ウェルフェアの看護化」

松原宏之「訪問看護と民主主義」

コメント：山岸敬和

司会：平体由美

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平体由美 (HIRATAI, Yumi)

札幌学院大学・人文学部・教授

研究者番号：90275107

(2) 研究分担者

小野直子 (ONO, Naoko)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：00303199

松原宏之 (MATSUBARA, Hiroyuki)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：00334615

山岸敬和 (YAMAGISHI, Takakazu)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：00454405

(3) 連携研究者

()

研究者番号：